

# ウッドバッジ実修所BS課程第186期 第三教程（実務訓練）



日本ボーイスカウト神奈川県連盟横浜南央地区

横浜第96団 団委員長（前ボーイ隊長） 中川 和之

2016年10月

## はじめに

この報告書では、2014年11月1日-4日に日本連盟・山中野営場で行われたウッドバッジ実修所ボーイスカウト課程186期（神田幸博所長）に参加するための第1教程で整理した課題をベースに、実修所でのプログラムトレーニングの結果を踏まえ、次の4つの課題について記した。

〔第3教程 課題1〕プログラムトレーニング（PT）で作成した隊集会計画書に基づくプログラムプロセスを図示するとともに、必要な計画書を作成してください。

P3～9 山中野営場で実施した第2教程であるプログラムトレーニングで作成した隊集会に必要として作成した計画書と、その作成プロセスの説明。

〔第3教程 課題2〕計画した隊集会およびプログラムプロセスの各過程を実施し、その状況報告と評価および今後の改善点について、報告書としてまとめてください。

P10～18 実際に、同年12月までに実施した集会の実践の内容と、プログラムプロセスの各過程から振り返っての評価と改善点の報告。

〔第3教程 課題3〕実施報告書における評価と改善点に対する自己研修計画を作成し、最低1つの成果を報告してください。

P19～24 課題2の実施で確認された改善点と、第2教程で作成した自己研修計画の自己ニーズに基づき、2015年1月末に実施した50キロハイクのプログラムプロセスの成果の報告と、その後の自己研修の実施状況

〔第3教程 課題4〕上記1、2の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

P25～27 課題3も含めて実施したプログラムの中で、保護者や地域社会への具体的なアプローチの結果報告。

〔まとめ〕実修所での学びを団運営にどう活かすか。

P28～32 団委員長になった今の立場で、プログラムプロセスを深く学んだ結果の成果報告と関連資料。

### 謝辞

第2教程から1年の2015年11月の段階で、第3教程の報告書案を策定し、横浜南央地区のトレーニングチームディレクターの前田幸LTの指導助言を受けた。

当初案は、各集会の事象を時系列で整理しただけで、プログラムプロセスが分かりやすく整理されていなかった。前田LTからは、時系列や集会単位としてではなく、プログラムの目的ごとに整理し、図も多用するなどして分かりやすくするようとの助言を受け、全面的に改定したのが本稿である。適切な指導をしていただいた前田LTに、改めて感謝したい。



## “やらされ感”の団料理番から、スカウトが企画したクリスマスでの料理提供

その年プロ会議の中で、例年、実施しているクリスマス会については、どのように議論したのかのプロセスを紹介する。まず、「単に楽しいだけでは、スカウト活動のクリスマス会ではない」ということを、GBとリーダーとで確認したうえで、スカウトたちのニーズとして、団全体でのクリスマス会か、ボーイ隊単独での実施なのか、過去のプログラム例を参考に、やりたい方式は何かを聞き取った。

かつて、96団ボーイ隊では、クリスマス会と称して、近所の町内会館に集まって、野外では作れない少し手の込んだ料理を自分たちで作って食べて1泊舎営をするというプログラムが続いていた。ベンチャーやローバースカウトが差し入れを持って顔を出し、普段は出来ないようなテレビゲームもこの日は解禁にし、異部門交流の場にもなっていた。

### 2008年から始めた保護者招待の「レストランボーイ亭」方式

私がボーイ隊副長になった2008年度に、スカウトが作った料理を保護者に提供する「レストランボーイ亭」という新しいクリスマス会のやり方を、隊長やGBたちと考案して、2008年12月(図5)、2010年12月、2011年12月(単身赴任中で私は不参加)と実施していた。

内容は、野外ではできないような料理を、調理室を借りて班対抗で作作り、クリスマス飾りをしてテーブルクロスを敷いた部屋に保護者を招待して、食事を提供するプログラムである。これは、2008年の「96団春の村」で、ボーイ隊が班ごとに違う味のカレーを作ってカブ・ビーバーたちに提供した際、「ボーイ亭」という看板を用意したこともきっかけの一つとなった。



2008年のボーイ亭の様子(図5)

自宅でも食べられないような料理を、班で作って食べてもらうことで、スカウトは親に対して自慢ができる。指導者としては、スカウトの成長ぶりを保護者に見てもらえる。1品、差し入れを持ってきてもらうことで、保護者にも参加感もあり、料理が増えるという三方一両得の内容である。

これらの発想は、私がカブ隊副長時代の2004年、「スカウト活動の意義を保護者に理解して欲しい」というニーズを抱えて参加したWB実修所カブ課程134期で得たことが大きい。その後、多くの保護者が当事者感を持って参画できる活動を次々に実施したことをきっかけに、スカウト活動の価値と面白さに気づき、保護者による周囲への口コミが強化され、実修所参加時にはたった7人だったカブスカウトが、27人にまで増える原動力となった。

その後、ボーイ隊への上進者も増えて3班体制となったが、十分な体制強化がないままだったことから、私がカブの隊長を3年で引き継ぎ、2008年度からボーイ隊指導者に加わった。キャンプやハイキングが中心となるボーイ隊の活動は、保護者の主体的参画が難しい。スカウトは、保護者との関わりを煩わしく思う年齢でもある。一方で認めて欲しいというニーズもある。その中で作り上げたプログラムが「レストランボーイ亭」のクリスマス会であった。

### 2012年は、団クリスマス会の料理番

残念ながら私が単身赴任中、ボーイ隊が料理を提供する実績のみに着目され、団全体のクリスマス会で指示された料理を作るの役割を振られてしまっていた。このため、年プロ会議当時のGBには、団に使われたという「やらされ感」が大きかった。このため、スカウトのイニシアチブを重視することを前提に、2014年度の年間プログラムの中に盛り込んだ。

2014年9月に新年度になった後、96団ボーイ隊は中1の班長(2級)、次長(2級)、3番スカウト(2級)と、小5が3人の1班6人体制となった。クリスマス会に向けた新年度のプログラムプロセスのスタートは、利用施設の予約のため、9月23日のGB会議で最初の検討を行った。そこで「スカウトだけの楽しい時間も欲しい」という提案を受け、食事プログラム後の保護者会の時間に、片付け後のスカウトの自由時間を設けることを決めた。中学生が試験期間中の11月15-16日には、クリスマス会での料理作りを念頭に、年プロにはなかった新入隊員対象の料理訓練キャンプを実施することを10月のGBで決めていた。

ここまでの、実修所のPTの前段階で、そのPTで作成したのが、隊集会企画書(資料3-1)である。



### 考えを整理する企画書作りで、プログラムのプロセス全体を深く理解

私は、月間プログラム企画書を、今回のプログラムトレーニング(P T)で初めて作成した。これまでのCS研・CS実、BS研、VS研や、それぞれの隊長ハンドブックでも、企画書作成を明示したプロセスはなく、年プロの次は隊集会の実施計画書となる。隊集会の実施計画書からスタートすると、プログラム内容だけに目を奪われてしまい、企画の意図は隊長の頭の中だけに留まってしまいがちになる。今回のP Tで、月間プログラム企画書を作成してみて、自分の頭の中を書類上に整理することができた。これに書いたことで、他の隊指導者やG Bとの意識共有に、とても役立つことが分かった。

P Tで使われた企画書のワークシートの原案は、GB会議で班長との間で作成していく書式で、テーマ、活動分野、目標、関連進歩、隊集会（日時と場所）、当番班、班長訓練（日時と場所）、班長会議（日時と場所）、班集会、プログラムの内容（隊、班、個人）、連絡事項となっており、「班長会議で聞き取ったことを、指導者がアレンジする」という注意書きがあるものだった。

#### ニーズやねらいの記載で、企画意図が明確に

P Tの中では、指導者が作成する連絡事項の欄に、「スカウトや指導者のニーズ」や、「企画の目的、ねらい」を書いて仕上げた。ニーズやねらいを明確に書いたことで、プログラムプロセスの中で、スカウトに考えさせ、実行させる内容が整理でき、班長会議や班長訓練、班集会で行う内容、スカウト個人や班、隊としてやるべき準備などを、明確に整理することができた。プログラムプロセスの月間プログラムの全体像を、1枚にまとめたのが企画書であることが、深く理解できた。

ボーイスカウト活動における企画とは、スカウトからの発案で始まるという考え方が基本だ。月間プログラムのプログラムプロセスの図（図6）が、班集会とGB会議の双方向からスタートするのは、その表われである。一方、GB会議に、隊指導者との両方向の矢印が書かれているのは、GB会議の場で指導者ニーズをうまく反映させるという意味である。

また、隊長ハンドブックなどの図には明示されていないが、プログラムプロセス上では、保護者ニーズとの調整も求められるため、ここでは保護者を書き加えて、プログラムプロセスの図のひな形とした。

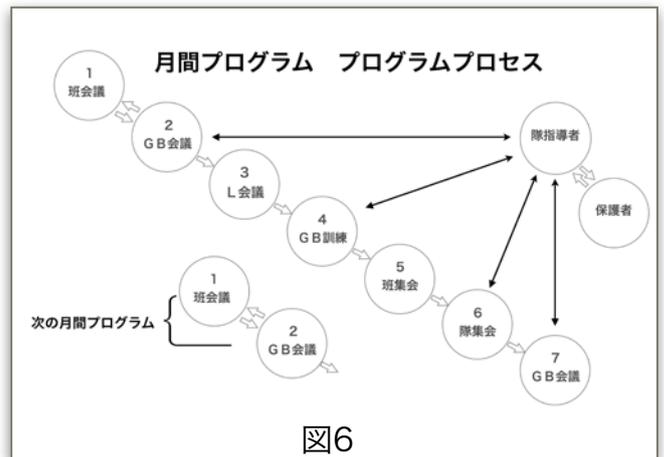


図6

#### 企画書のベースに「ニーズの集約」と「目的・ねらい」

第3教程を行うにあたって、P Tで使ったものとは大幅に体裁を変えた月間プログラム企画書を自分で作成した。これは、隊指導者間で共有する企画書で、元の書類のようにGBに記入させることは前提にしていないものだ。実際に、この書式で「12月月間プログラム企画書」（資料3-2）を作成した。

まず、テーマや目標、隊集会やGBの日時と場所、当番班という基本事項のすぐ下に、「ニーズの集約」という欄を設けた。そこには、指導者、GB、スカウトそれぞれに、「ニーズ」、「目的」、「ねらい」が記載できるようにした。あえて、「目的」と「ねらい」というような言葉を並べたが、「ねらい」の部分は本音に近い内容を書けるようにした。

GBやスカウト、保護者や指導者のニーズは、年プロ会議や保護者会などを通じて集約したうえで、さらに月間プログラムプロセスの「次の月間プログラム」の2のGB会議（図7）の場でもやりとりしておくことで、月間プログラムの企画書にも盛り込むことができるのだ。

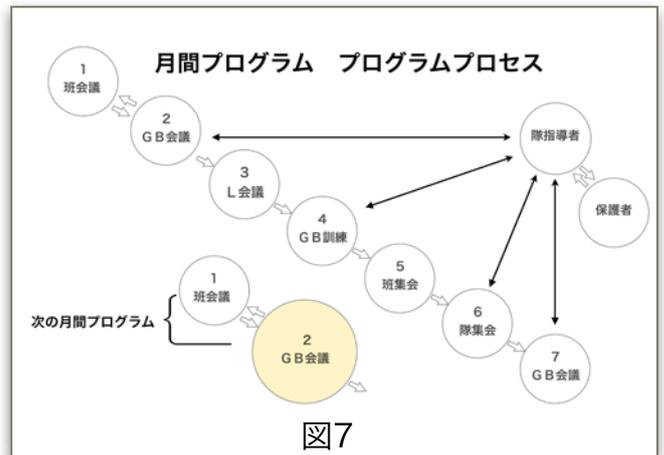


図7

資料3-2 (平成26年12月月間プログラム企画書)

年プロ作成プロセス3の段階で「班員たちは何を考えていると思う？」とGBに問いかけ、把握したニーズ。月間プロプロセス1の班集会、2のGB会議でこの部分を再確認する

保護者のニーズは、過去の実施例の際に聞き取った内容から想定。PTの図の右上の矢印

プログラム企画書

作成日：平成26年11月15日

テーマ	レストランボーイ亭のX'mas料理	目標	キャンプで作れない料理に挑戦!	
隊集会	平成26年12月23日(祝)	当番班	ホワイトベアー班	
班長会議	平成26年11月22日(土)	GB訓練	平成26年11月22日(土)	
	ニーズ	目的	ねらい	
ニーズの集約	指導者	保護者のスカウト活動の理解促進と、班としての対外活動でスカウトに自信を付けさせたい	スカウトと保護者が同じ場で、スカウト活動の意義を、共有することが目的	部活や他の習い事、勉強の次ではなく、日程を優先してもらうため
	GB	仲間と楽しい時間が欲しい。作ったことのない料理をチャレンジしたい。	スカウト活動としてのクリスマス会にはしたい	あまり親と一緒に長くはいたくないが、プチ自慢はしたい
	スカウト	先輩たちと楽しく料理したい。美味しいものは食べたい		
		目的	目標	細部
プログラム内容	隊	スカウト、保護者、指導者が、全員で一つの場を共有できる内容にする	スカウトに、やや背伸びした料理にチャレンジさせる	班で3品、指導者3品、保護者が1品の持ち寄りパーティ。食後は保護者会。並行してプレゼント交換
	班	手分けはしつつ、みんなで場を仕上げる	予算の範囲で、保護者が、ちょっと驚くような料理を作る	予定では班長が不在のため、4人で2品目を作る
	個人	普段は作らない料理にチャレンジする	食材選びや調理の段取りなどを考えて、手際よく行う	2人で1品を作る
		実施課題	実施内容	準備品
事前準備	GB訓練	当日、使えるリソース、資金を理解し、計画が作れるようにする	予算を明示、班員に考えさせる範囲を想定させる。要望でガス台の使い方も	当日の会場の状況写真、当日のガス台に変わるガスバーナー
	班会議	当日に向けて準備することを決めるなど	作るメニューとプレゼントの金額を決め、招待状作り	招待状の用紙
	班集会	当日の具体的な準備作業	買い出し	買い出しの資金
		初級スカウト	2級スカウト	1級スカウト
進級課目	必修科目			
	ターゲットバッジ	A1 (メンバーシップ) = 3, 4、E2 (野外料理) = 1、F1 (食料) = 1, 6		

GB訓練や班集会で実施すべきことをPTの2のGBで検討

PTの2を受け、3のL会議で決定した内容でPT4の訓練を実施

PTの2のGBで作成したPT5の班集会計画書で実施

PTの1,2の班集会,GBを受けて、3のL会議で具体的な実施計画を作成

### 第三教程

「プログラム内容」の欄には、隊、班、スカウト個人ごとに、最終的に実施する隊集会のプログラムの大きな「目的」と、そのための「目標」、さらに具体的に実施する内容の「細部」に分けて書けるようにした。これらの内容の大半は、月間プログラムのプロセスでは2のGB会議で取り扱う事項だ。GB会議を受け、リーダー会議で隊集会の実施計画書が作られるが、隊集会での実施事項の骨格は「細部」に書くようにした。その下の「事前準備」の欄は、「GB訓練」、「班会議」、「班集会」という、隊集会に向けて実施していく集会ごとによることを整理できるようにした。何を＝「実施科目」、どのように行うか＝「実施内容」を記載し、そのために必要な準備品を書き出す。ここは月間プログラムのプログラムプロセスの4-6に該当する。最下段には、進歩について記載する欄を設けた。

### スカウトには自信を、保護者には一層の理解を—月間プロのニーズ

この「12月月間プログラム企画書」（資料3-2）に、プログラムプロセスの視点がどう反映されているかを、具体的に説明する。

まず、「ニーズの集約」の欄には、指導者ニーズとして「保護者のより一層のスカウト活動の理解促進」、「スカウトに自信を付けさせたい」を上げ、その目的・ねらいとして「スカウトと保護者が同じ場で、スカウト活動の意義を共有」、「部活や他の習い事、勉強の次ではなく、スカウト活動の日程を優先してもらおう」ことを、このプログラムで実現をしたいと考えた。保護者の考え方は、保護者会などの場で聞き出していることを元に、書き出してみた。

GBの「スカウト活動としてのクリスマス会にはしたい」という考えや、班員の「先輩たちと楽しく料理したい。美味しいものは食べたい」などというニーズは、年プロ作成段階や、9月23日のGB会議（図7に相当）で「班員たちは何を考えていると思う？」と問いかけていたことを元に記入した。

「プログラム内容」の隊や班としてやること、スカウト個人がやることの目的や目標の部分は、月間プログラムプロセス2のGB会議（図8）で決めるべき内容だ。企画書に書かれていることは、GB訓練や班集会で実施すべきことを考えるたたき台である。また、プログラム内容の細部については、プロセス2のGB会議や1の班集会を経た上で、3のリーダー会議で具体的な実施計画を作成することになるが、企画時点での想定案として書いた。さらに、「事前準備」の欄の「GB訓練」や「班会議」「班集会」は、まさにプログラムプロセスの1や4、5でやることである。これらも、GB会議で決めていくことだが、指導者側の心づもりとして企画書に整理した。実際、図9の「GB会議」と「隊指導者」の○との間や、「GB訓練」と「隊指導者」の○の間が、両矢印で書かれているのは、一方的にGBに任せるのではなく、隊指導者とのコミュニケーションをとって進めるものであり、そこに指導者のプログラム意図を反映させるべきだからである。一方、隊側のリソースが、スカウトからの要望に応えられるかどうか、事前に想定しておく必要があるという実務上の理由もある。

これらのことを踏まえて、11月22日のGB会議の計画書（資料3-3）を作成した。このGB会議は、プログラムプロセスの1の班集会や、4のGB訓練のニーズ・内容の確認、隊集会としてのクリスマス会の内容の確定など、月間プログラムのキモになる場であり、班集会の計画書の作成も求められる。

GB会議では、隊指導者との間でこのプログラムの意義を共有し、班員を指導できるようになることが重要である。このため「隊長から、12月のレストランボーイ亭の活動の狙い『楽しい、美味しい、感謝の心』の意味を聞く」として、そこに（十分な質疑）という注意書きを加えた。この3つのキー

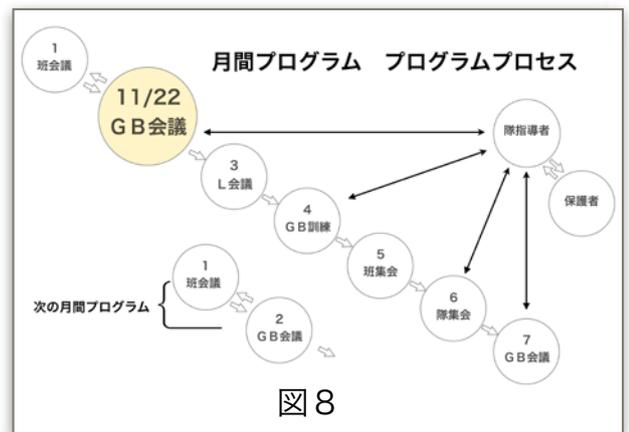


図8

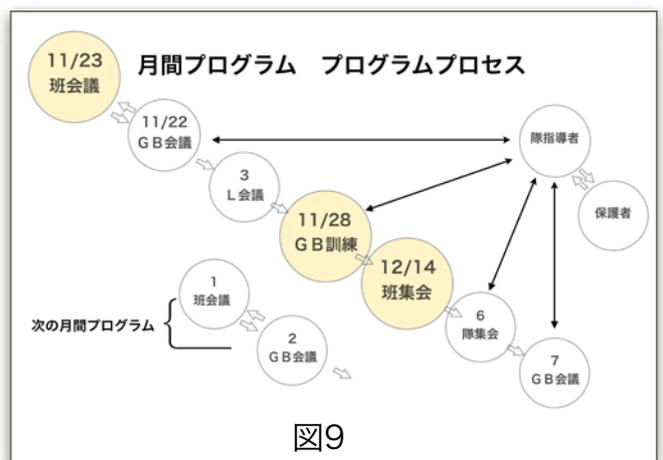


図9

### 第三教程

ワードは、「楽しい、美味しい」というクリスマス会らしいスカウトニーズに、おきての「感謝」を加えたものである。この言葉をGBたちが納得することによって、単に保護者をごちそうして楽しむだけでなく、「感謝の心を持つ」スカウト活動の一環であるということを、GBが班員たちに説明できるようにすることを狙ったものである。課題2では、この計画書に沿って実施した結果を報告する。

#### 資料3-3 (平成26年12月GB企画書)

#### グリーンバー会議 計画書

会議日時	2014年11月22日	場所	団倉庫前	記入者	中川
時間	8:30 ~ 11:30	出席予定者	糟谷颯希、小間		
今月の歌	名誉にかけて				
目標	・レストランボーイ亭の活動を通じて、班員たちのがんばりを保護者と共有する				
	・班員たちの楽しみを演出する方策を作り出す				
	・2回の班集会計画書を作成する。				
会議の予定	・セレモニー、ソング練習(名誉にかけて)				
	・隊長から、12月のレストランボーイ亭の活動の狙い「楽しい、美味しい、感謝の心」の意味を聞く(十分な質疑)				
	班長不在の12月の隊集会に向け、事前と本番で何をしなければならないのかをリストアップする。				
	過去の流れを説明し、自分たちならどうしたいかを考える。班集会でどう決めるかも考える。				
	of:メニューの決め方(自分たち、指導者、保護者)、プレゼント金額、料理の練習、サービス方法、買い物				
	1回目でメニュー案を多めに考え、必要な材料について調べる(田中の支援?)。2回目で決める?				
	「野外」の料理ではないので、進歩に関係することとして、簡易コンロやツーパーナー(ホワイトガソリン、				
	カセットガス)の使い方を、覚える。スカハンを参考に、教え方も整理する。				
	班会議・班集会の計画書(2回分)を作成する。				
	GBの進捗状況を確認する。1級キャンプへの見通しを確認する。班員の進捗チェック状況を確認する。				
進捗状況	オーバーナイトハイクについて、方針を検討する。燈明寺のご挨拶?				
	地区班長訓練会について、スケジュールを説明する。				
	班集会で、夏の村についての班員からのリクエストを聞く(2回目?)				
その他決めておくこと	・屋外なので、集合前にお湯を沸かしておき、温かい飲み物(コンソメスープ?)を提供する。				

#### 隊集会の確認と隊への要望

テーマ	レストランボーイ亭	集会日	2014年12月23日	集合場所	みどり保育園
集合時間	9:00	解散時間	15:00	解散場所	みどり保育園
隊への要望想定	・班集会の場所の確保				
	・経費の支出				
	・機材の貸し出し				

## 課題2

**計画した隊集会およびプログラムプロセスの各過程を実施し、その状況報告と評価および今後の改善点について、報告書としてまとめてください。**

まず、第2教程のPT以降に実施した集会に沿って、プログラムプロセスの各過程の実施状況を報告する。特に、プログラムプロセスの上で、重要なポイントは下線を入れた。

### 前月の隊集会=11月15-16日、料理教室キャンプで初級に料理のモチベーション

中学生の試験期間中、初級になったばかりの小学5年生3人だけで、高度な野外料理にチャレンジする集会を行った。

食中毒防止の座学のほか、通常のクリームシチューの夕食とご飯と味噌汁の朝食以外に、燻製、鳥ハム作り、パン作りを行った。12月のプログラムには、内容的には直接つなげてはいないものの、料理作りへのモチベーションとし、プログラムプロセスを展開しやすくした。



図10

キャンプ中に作ったパンは、キャンプ場所有者の横浜31団のBS隊長に「うまい」と食べてもらった(図10)。

### グリーンバー会議から5回の準備プロセスで本番へ

当日までの準備段階で、スカウトたちはグリーンバー会議から、5回の会議・集会を行って、当日を迎えた。前年度の年プロ会議や、初級キャンプも考えると、実施までにたくさんのプロセスを踏んできている。これらのプロセスを踏まえ、当日を迎えた。それによって、当日のプログラムが、自分たちの自発活動で積み上げてきたことを納得しながら展開できることになる。各プロセス段階で実施した日付を、プログラムプロセスの図に書き入れた(図11)。

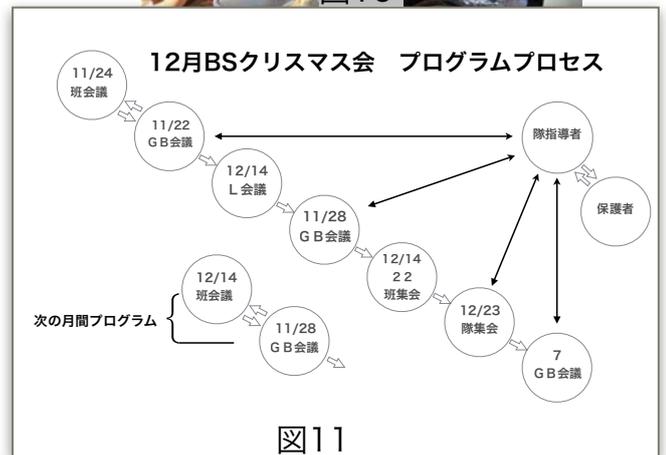


図11

### グリーンバー会議1=11月22日、テーマを「楽しい、美味しい、感謝の心」と決定

この日は、次長がインフルエンザで欠席したため、班長と隊指導者3人が参加して、計画書に基づいて行った。セレモニーで、ソングを練習(名誉にかけて)。隊長から、12月のレストランボーイ亭の活動の狙い・意味を聞き、十分な質疑を行って、テーマを「楽しい、美味しい、感謝の心」とした。

その上で、過去のクリスマス会で実施した、スカウト、指導者、保護者が、それぞれ人数分の料理を持ち寄って、食事をする流れを説明。自分たちならどうしたいか、班集会で何をどう決めるかを班長が考えて決めた。

この時点では、12月23日の当日には、班長が部活の試合で不在となる予定だったため、事前の班集会と本番で何をしなければならないのかを検討した。隊指導者から、決めるべきことの例として、メニューの決め方(予算は3千円分)、プレゼント金額、料理の練習、サービス方法、買い物の段取りなどを挙げた。

GB訓練として、進歩に関係することとして、簡易コンロやツーバーナー(ホワイトガソリン、カセットガス)の使い方を、スカハンを参考に教えて、班員への指導方法も考えさせた。班集会で、防水マツチ作りを実施する段取りも決めた。

班集会までに、欠席した次長と、平日の夜にでもGBミーティングを実施することを決めた。このほか、班長の1級キャンプへの見直しを確認。班員の進歩チェック状況もチェック。班会議・班集会の計画書を、班長が隊長のPCを使って班集会フォーマットに記入して作成(資料3-4、3-5)して終了した。

GB会議を経て、本番の場所をみどり保育園の調理場と和室、2階の講堂を借りる手配をし、班集会の場所の手配も行った。

資料3-4 (平成26年12月班集会1 計画書)

班集会 計画/報告書 (欄内に記載できない場合は、別紙に記載し添付する)

班名	ホワイトベア	班長名	糟谷	テーマ	楽しい、美味しい、感謝の心 Xmas会	
実施計画			隊長承認	中川	隊長確認	
予定日	11月24日	予定場所	田谷の里	実施日		実施場所
集 会 の 目 標	クリスマス会を成功させる			内 容		
内 容	10:00	スカウト集合、セレモニー				
	10:15	ソングの話、クリスマス会のこと				
	10:30	メニュー決め(4種類くらい)				
	11:00	クリスマス会のこと決める				
	11:20	進歩				
	11:45	セレモニー				
	12:00	解散				
班 会 議 の 内 容	クリスマス会のメニュー			班 会 議 の 結 果		
	サービス方法、予算、招待の仕方					
参加予定者				遅刻者(理由)		
糟谷(颯希)、伊藤、原田、糟谷(空)						
欠席予定者(理由)				欠席者(理由)		
小間 インフルエンザ、田中 部活						
進歩計画				進歩結果		
C-2-1、2 D-6-1 E-2-1						
信仰奨励章						
班の持ち物				感想・評価		
連絡事項				今後の課題		
11				BSY96 中川		

第三教程

資料3-5 (平成26年12月班集会2 計画書)

班集会 計画/報告書 (欄内に記載できない場合は、別紙に記載し添付する)

班名	ホワイトベア	班長名	糟谷	テーマ	楽しい、美味しい、感謝の心 Xmas会		
実施計画			隊長承認	実施報告		隊長確認	
予定日	12月14日	予定場所	団倉庫	実施日		実施場所	
集 会 の 目 標	クリスマス会を成功させる			内 容			
内 容	9:30	スカウト集合、セレモニー、ソング練習					
	9:45	メニュー決め					
	10:00	クリスマス会のこと					
		当日の確認					
		招待状を作る					
	10:40	簡易コンロの使い方					
	11:10	防水マッチの作成(調理実習)					
	11:50	進歩の確認					
	12:30	昼食					
	13:00	移動(燈明寺)					
13:15	燈明寺でお話を伺う						
13:30	解散						
班 会 議 の 内 容	クリスマス会のメニュー			班 会 議 の 結 果			
	クリスマス会、当日の確認						
参加予定者				遅刻者(理由)			
糟谷(颯希)、小間、伊藤、原田、糟谷(空)							
欠席予定者				欠席者(理由)			
田中 部活							
進歩計画				進歩結果			
A-1-1, 3, 4 G-8-3, 6 E-4-1, 2, 4, 5							
信仰奨励章							
班の持ち物				感想・評価			
連絡事項				今後の課題			
必要だったら、料理の練習							
12				BSY96 中川			

### 班集会1 = 11月24日、メニュー案などを検討

次長がインフルエンザで欠席。班長が、3人の初級スカウトに、GBで考えたクリスマス会の意義や流れなどを説明。レシピ本などを元にメニューを検討し、手羽先（焼く）、サイコロステーキ、卵焼き、カボチャスープのうち、2つを作ることにした。リーダーには、ご飯系のものを作って欲しいとの要望があった。サービス方法は、大きいお皿に盛って、みんなで食べるバイキング形式とした。招待状は、特別なデザインとかをせず、地味に普通に作ることにした。プレゼント金額が500円で、リーダーも含めて、用意してもらうということを決め、プレゼント交換は、食事の後、スカウトと清水副長ら一部リーダーとビンゴで遊びながら行うこととし、隊指導者にビンゴセットなどの準備物のリクエストを行った。

### グリーンバー会議2 = 11月28日、当日までの段取りなど確認

11月28日夜に、班長、次長と指導者が、原宿のマクドナルドに集まり、インフルエンザから復活した次長も参加して、GB会議を実施した。

班集会で決めたメニューを確認し、部活で欠席が続くTスカウトに、必要な食材と予算、レシピを自宅で考えてもらうように、次長からメールで連絡を取ることにした。Tスカウトの情報を受けて、GBの2人で作るものは事前に決め、14日に調理実習をする必要があるかどうかを確認。班で2品なので、次長が難しいのを1品、残る3人で1品とすることにし、班集会で詰めることにした。

当日の進行は、保護者が来たら、全員そろそろまで待ってもらい、それまで飲み物をサービス。全員が集まったら、スカウトから料理を紹介し、次長が班長のあいさつ文を代読することとした。団委員長、副団委員長も招待することを決めた。

このあと、GBの二人の進捗状況を確認し、班長の1級キャンプ実施に必要なターゲット取得を、班集会に組み込むことなどを確認した。

この翌日、班長の部活予定が変更になり、班長、次長ともに参加できることになった。

### 班集会2 = 12月14日、4品目のメニュー決定

次長が部活、班員1人がタグラグビーで、班長以下3人で集まった。当日は、5人で実施できることになったので、手羽先（焼く）、卵焼き、巨大オムレツ、カボチャスープと4品目にした。

班長から、簡易コンロの使い方や、防水マッチ作りを班員に指導。ターゲットバッジになる自転車のブレーキワイヤ交換を行った。進捗チェックを行った。

班長は部活に出かけたが、昼食後、班集会の続きとして、2人の班員で大晦日のオーバーナイトハイクで仮眠させてもらう寺に、挨拶に行った。そこで、大晦日の除夜の鐘の意味などについて、ご住職のお話をうかがった。「安心と要心」、「自分でスイッチを入れる」、「動中の工夫」-などという話で、信仰奨励章の「教導職の話を聞く」という細目につなげることができた。これについては、課題4で詳述する。

### 班集会3 = 12月22日、食材の買い出し

班長、次長らで、翌日の食材の買い物を行った。残念ながら、Tスカウトからのレシピや食材リスト提供は間に合わなかった。

### 隊集会 = 12月23日、「レストランボーイ亭のX'mas」

Tスカウトを除いて5人が参加。ゲストは、保護者3家族5人、団委員長と副団委員長が参加した。指導者の参加は4人で、OJTで狙った次期隊長は参加できなかった。

以下、写真で、その様子を紹介するが、やらされ感のない自発活動として、プログラムが進行したことが分かる。



班長を中心に、分担して調理が進む



レシピ本を確認しながら、指示を出す班長



カボチャスープも着々と準備。案外、美味！



まず、卵焼きができあがり



手が空いたスカウトがメニューカードを作る



最後に大きなオムレツができあがり



食べる前に記念撮影



保護者とスカウト、団委員長らが一緒に



なかなか、おいしいじゃん



おなかいっぱいです

このあと、スカウトはビンゴゲームで、プレゼント交換。保護者とリーダーは、保護者会。



セレモニーで、ターゲットバッジを授与



保護者にも立ち会っていただきました

## 評価と、今後の改善に向けて

### 企画書段階のニーズ

今回の実修所において、最も大きかった研修ニーズは、OJTでプログラムを実施しながら次期隊長に引き継ぐということである。キャンプやハイキングと異なり、多様な狙いが内在し、手間がかかるプログラムを実施したのは、実施したプログラムが、プログラムプロセスに沿って行われることを確認することによって、次期隊長とさまざまなプロセスを共有するの狙いだっただけだ。

従って、今回の一連のプログラムが狙い通り、実施できたかどうかだけで評価するものではないが、まず、企画書で挙げたニーズや目的がどれだけ達成したかを確認する。企画書のニーズの欄は、次のように記した。

- ・指導者ニーズ

保護者のスカウト活動の理解促進と、班としての対外活動でスカウトに自信を付けさせたい。

- ・指導者の目的

スカウトと保護者が同じ場で、スカウト活動の意義を、共有することを目的とする。

- ・指導者の狙い

部活や他の習い事、勉強の次ではなく、日程を優先してもらうため

- ・GBやスカウトのニーズ

仲間と楽しい時間が欲しい。作ったことのない料理をチャレンジしたい。

スカウト活動としてのクリスマス会にはしたい

あまり親と一緒に長くはいたくないが、プチ自慢はしてもいい

先輩たちと楽しく料理したい。美味しいものは食べたい

### ニーズや目的は、かなり達成

微妙な年齢のボーイ部門だからこそ、適切な距離を置いて、保護者にスカウトの成長を見守ってもらうためにも、隊指導者と保護者の協力関係は非常に重要だと考える。

かつて、CS隊長の時代、指導者仲間や保護者と一緒にスカウト数を増やすことが出来たが、BSに上進したスカウトに十分なフォローが出来ず、スカウトの退団が続いた。私自身がBS副長になった時から、保護者に適度な距離で参加してもらえるプログラムの実施を仕掛けてきたのは、それらの反省からである。このプログラムのニーズや目的、狙いは、そういう意図がある。しかも、それを次期隊長と一緒に進めることで、さまざまなOJTになることを狙った。

今回の企画を実施していくに当たって、GB会議では、そのような大人の意図は説明できるものではない。基本的には保護者なんて、出てきて欲しくないと思うのがスカウトである。ましてやGB年代なら、なおさらである。

まず「せっかくのクリスマスなのだから、楽しい時間にしたい」というスカウトの気持ちを尊重した上で、「スカウト活動としてのクリスマス会、ということは外せないよね」という言い方をすることで、GBたちならではのスカウト意識に基づいて、ていねいに企画を進めていく流れを作ることが出来た。「楽しい、美味しい、感謝の心」というテーマも、GBたちと議論しながら決定することができた。この言い方は、GBたちも、班員たちにも、違和感なく受け止められた。

また、スカウト上がりのO副長からの提案で、年間プログラムになかった小学生たちの料理キャンプを加えた。これによって、より料理に対して意欲を持った段階で、親や団委員長らに食べてもらうことになり、すこし晴れがましい場にも前向きに取り組んでいた。

クリスマス会当日は、保護者や団委員長らから、作られた料理に対して感嘆の声が自然に上がり、要求レベルの高い班長にも「どうだ」という自慢げな表情が見られた。また、保護者側も、単にサービスを受けるだけでなく、何か1品を持ち寄ってもらうことによって、狙いとした「スカウト、保護者、指導者が、全員で一つの場を共有できる内容」が実現できた。

## 保護者と指導者がスカウトの成長を共感

スカウト活動は、保護者の理解と協力がなくしては成り立たないとは言わずもがなである。ハイキングやキャンプ、班活動など、ボーイ部門の活動として、具体的な保護者の協力が必要になる場面が少ない。スカウトも、保護者の目がないところで、自由に振る舞いたいと願っている。従って、スカウト自身に任せて欲しいと思う一方で、適切な保護者の協力・後押しがないと、へこたれてしまうスカウトも出てくる。

スカウト自身、「自治の仲間」同士で何でもやれる、という意識は成長の糧だ。一方で実際には、自分で問題解決が出来ないことも少なくない。学校の勉強や塾、家族の用事、小学校でのミニバスやタグラグビー・少年野球・サッカーなどのクラブ活動、中学校の部活など、たくさんの用事とスカウト活動との両立は、必ずしも自分の思う通りにできない。他の活動と異なり、スカウト活動はすぐに成果が目に見えたりにできるものでもないで、より、後回しにしてしまいかねない。

今、CS隊の副長をやっている自分の息子もそうだったが、スカウト本人が「もう、辞める」というようなことを、家庭内で口走ることもある。保護者から「自分で決めなさい」、「そんなに参加できないなら、無理ないで辞めれば」などという言葉によって、退団の方向を選んでしまうこともありうる。そこで求めたいのは、「せっかくやっているのだから、出来る範囲で続けてみれば」というような、少しの後押しなのだが。

指導者と保護者の間では、コミュニケーションが重要なのは言を待たない。ただ、保護者会で集まってもらって、隊指導者側からの保護者への要望事項を伝えて、保護者からの要望事項も聞くというような場では、対話どころか、下手をすると対峙の場にもなりかねない。

今回のようなクリスマス会の中で、指導者と保護者がスカウトの成長を目の当たりにした上で、行うコミュニケーションは、最初から「共感」をベースにやりとりが出来るはずである。残念ながら、この日は次長の保護者が参加されなかったが、課題4の内容とも重なるが、保護者らの感想を列挙する。

### 保護者の言葉（秋に上進したばかりのスカウト）

「家と違って、生き生きと活動している姿が、嬉しかった」

「カブよりハードルが高くなって、初めは戸惑っていたが、技能大会も越えて、日に日に成長していることを実感している」

「カブとは随分違う。今度はどんなことをしなければならぬだろうという重荷を背負う気分になるようで、『かったるい』と言う気分もあるようだが、『面白かった』ともいい、課題をクリアしていくような渦中にあるようだ」

「学校の先生が懇談会で、『ずいぶん、しっかり、発言も増えた。自分を出せるようになってきた』と言われている。『学校でおとなしくしているので、いいぐあいにこなれてきたと思う』と先生が言っていた」

「若いS副長や班長たちを慕っているみたい。隊長や副長が今度何を言うのかなとぶつぶつ言いながら、自分の中でこなしていくのを、やる前は嫌がるが、やったあとは『やったな』と言う感じで。班長が言ってくれたことを、よくいって、慕ってくれている。また、仲間を頼りにするような発言をしている。あいつがいると安心だとか、頼りにするようなことを言っている」

「中学になったら、部活でいまのように出られなくなることも分かっているが、今は同期の2人がいるので心強いようだ。スカウト活動に参加しているというよりも、兄（班長）がいるので流れでやっているようだが、それなりに楽しんでいるようだ」

### 保護者の言葉（班長スカウト）

「もともと主体性がなく、無難な立ち位置にいれば済むタイプ。先生も『もうちょっと力を出したらいい』と言われる。学校と部活とボーイのバランスに苦労しているが、ボーイは楽しみのようで、どれかを削らないで頑張っている」

### 具体的な改善課題

#### 年プロ計画の策定時にスカウトの選択肢として

このプログラムでは、スカウトも満足、保護者も満足、指導者も有意義な保護者会が出来るという一石三鳥が実現できている。細かい部分で課題はあるが、スカウトの都合にあわせて、臨機応変にやらざるを得ない部分はどうしても残る。その点では、なんとか目的は達成できたというところだ。

このような有意義なプログラムだが、毎年やっていたらマンネリ化するし、スカウトたちにもやらされ感がでてきてしまう。私が、単身赴任で不在だった時期に、このプログラムの中の「ボーイが料理を作る」ということだけを持ち出され、団のクリスマス会で、みんなに料理を作るという役割をはめられた時期があり、スカウトたちは「なぜボーイだけ」という不満がでていたと聞いた。

ボーイ部門らしいクリスマスプログラムをどうするかとGBたちが考える際に、選択肢の中にある程度でよく、毎年の定例行事にしなくてもよいとも考える。実際、2015年度は、クリスマス会を団行事で実施し、2016年度はクリスマスキャンプの実施を予定しており、4年間のBS活動の中で、1、2回は経験する程度で良いプログラムとして、引き継がれていくのが良いと考える。

また、当日の場に最もいて欲しかった次期隊長が、この日は参加できなかったことは残念だった。ただ、当日までのプロセスは十分共有しており、この日の保護者会のメモも直ちにメールで流している。さらに、課題3の取り組みにもつなげることができている。

#### 足りなかった欠席スカウトの保護者とのコミュニケーション

反省事項としては、結果的には2015年3月で退団することになったTスカウトへの配慮が、もう少し出来ればよかったことだ。先輩部員がいない剣道部に入部、1年生なのに体格も良いため入部早々にレギュラーとなり、毎週のように試合や遠征があり、GW以降はほぼ参加できていなかった。ただ、2014年9月の新年度スタート直後の保護者会で、「剣道部に入って毎朝5時から部活、ほとんど活動に來られていないが、本人は辞める気はない」と母親が語っていたので、安心したのが失敗だった。

何かの役割を果たしてもらおうと指導者と相談をした上で、その後に行った同期の班長、次長と3人でのGBミーティングで、自宅でもできる班の役割として、“キャンプなどでの料理のレシピと買い出しリスト作り”担当をすることになった。実際、10月のキャンプの際は、次長やGB担当のS副長との間で、携帯メールで連絡を取り合ってリスト作りを実施した。

今回のクリスマス会でも、同様のレシピ作りを期待したが、普段のキャンプ料理と異なるメニューでもあり、GBや班集會に來れないままでレシピを作るのは困難だったため、うまく役割を果たしてもらうことが出来なかった。

その後も、連日の剣道の部活と週末ごとの試合や遠征で、スカウト活動にはまったく参加できないままだった。本人はできれば継続したい気持ちはあったようだったが、活動費が遠征費も含めて月に1万円を超える中で、ほとんど参加できていないスカウト活動の育成会費の負担までを保護者に求めるのが申し訳ないと考え、退団という判断をしたようだ。いろんなことに気を使うことが出来るTスカウトが、部活の顧問にも保護者にも気を使う中で、退団に至ってしまった。負担が少ない休隊という判断とかもあり得たわけで、もっと早い段階で、保護者との連携体制が取れていたら良かった。ことはお金の絡む話で、なかなか簡単ではないが、結果は同じだったかも知れないが、スカウトのためということを真ん中において、もっとやりとりをしておけばよかった。

#### 意識して保護者との対話の時間の確保を

活動の場で向き合っているスカウトの向こう側にいる保護者との丁寧なコミュニケーションは、ボーイ部門なりに重要な課題だと改めて感じさせられた。

このため、課題3、4でも詳述するが、50キロハイクなど他の保護者参加プログラムと組み合わせることによって、保護者とのコミュニケーションの場を、意識して確保していくことが求められる。

また、現在の私の立場からは、団全体としても、隊活動だけでは出来ない場での良いコミュニケーションが出来るような団運営を図っていくことが課題だと考えている。

## 課題3

### 実施報告書における評価と改善点に対する自己研修計画を作成し、最低1つの成果を報告してください。

今回の実修所の第2教程の最後にまとめた自己研修計画では、次の3つをテーマに挙げた。

#### 研修ニーズ（1）

次期隊長が予定されている副長との意識合わせ。引き継ぎのプロセスを一緒に作っていく。

研修の手段・方法＝早期に個別会談を実施、リーダー会議とは別に継続協議をする。

支援を受ける人＝O副長本人、Y団委員長

それを行う期間＝第1フェーズ11-12月、第2フェーズ1-3月

#### 研修ニーズ（2）

上班的存在である若手副長補との意識あわせ。

研修の手段・方法＝早期に個別会談を実施し、リーダー会議の前後でO副長、OK副長とも継続的に協議。

支援を受ける人＝S副長本人、O副長、OK副長、Y団委員長

それを行う期間＝第1フェーズ11-12月、第2フェーズ1-8月

#### 研修ニーズ（3）

保護者ニーズの把握と、スカウト教育の意義の共有

研修の手段・方法＝12月のクリスマス会時の保護者会でアンケートをし、旗揚げ式で回収。50キロハイクの協力を機会に、さらにヒヤリングを重ねる。

支援を受ける人＝保護者でもあるK・VS副長、H・BVS隊長、Y団委員長

それを行う期間＝第1フェーズ1-2月、第2フェーズ3-8月

#### 自己研修として50キロハイクの企画書を作成

この3つのテーマは、スカウトと保護者、指導者で作るクリスマス会のプログラムを実施した後を想定したものだ。実際に実施して評価と今後の改善点を検討したうえでも、研修ニーズは、ほぼ変わってはいない。

研修ニーズ(1)については、12月21日と1月10-12日の横浜南央地区班長訓練会に、次期隊長のO副長にスタッフ参加してもらい、OJT的に地区の隊長会や多様な班長像を理解してもらうことを狙った。地区班長訓練会は、今年から私が訓練隊長に指名されて、座学中心から体験とワークショップを中心にした内容に組み立てることになっていた。ここの場を共有することで、意識あわせがより進むと考えた。

研修ニーズ(2)としては、ボーイスカウト講習会に、S副長補が他のRSらと一緒に参加してもらい、次期隊長を支えるスタッフに成長してもらうことを考えた。

研修ニーズ(3)で事前にあげていた保護者ニーズの把握やスカウト教育の意義の共有は、クリスマス会時点での保護者の言葉からも、一定程度は共有されていることが確認された。アンケートで聞き出そうとしていた情報も一定程度分かった。

ただ、その後のTスカウトの退団という結果からも分かるように、ボーイ部門では引き続き、保護者の理解が大きな課題である。クリスマス会に次期隊長が来ていただけなかったこともあり、課題2の反省とニーズ(1)とニーズ(3)の実現するために、年間プログラムで計画していた50キロハイクを、その点を重視して、実施することとし企画書（資料3-6）を作成した。

企画書の中で、課題を意識し、保護者に関連する部分に下線を引いた。

資料3-6 (2015年1月隊集会企画書)

## プログラム企画書

作成日：平成26年12月14日

テーマ	50 キロを歩くハイキング	目 標	全員で 50 キロを歩ききる	
隊集会	平成27年1月31日(日)	当番班	ホワイトベアー班	
班長会議	平成27年1月24日(土)	GB訓練	平成27年1月24日(土)	
	ニーズ	目 的	ねらい	
ニーズの集約	指導者	スカウトの成長機会の提供、96 団としての伝統の継承、保護者の参画	スカウトに達成感を持たせるとともに、保護者にも役割を果たしてもらいたい。歩くだけでなく、進歩もさせる	保護者の自然なサポートにより、プログラムが充実することの実感と、スカウトが達成感を味わう場면을指導者と共有する
	GB	後輩スカウトたちに、自分たちの背中を見せたい	自分たちができた 50 キロのハイキングを、班員たちにも達成させたい	後輩にいいかっこうをしたい。
	スカウト	先輩のやれたことは、やってみたい	先輩が出来た 50 キロハイクを歩き通したい	先輩に認めてもらいたい
	目 的	目 標	細 部	
プログラム内容	隊	日本橋から戸塚まで 50 キロを安全に歩ききる。	途中の課題と目標時間で管理する	写真のターゲットになるような課題も準備する
	班	日本橋から戸塚まで 50 キロを安全に歩ききる。	全員で制限時間内にゴールをする	歩いた道が旧東海道の証拠を10箇所以上撮影する
	個人	日本橋から戸塚まで 50 キロを安全に歩ききる。	50 キロ歩けるように体調を管理する	地図を読む力を持つ。カメラの使い方も知る
	実施課題	実施内容	準備品	
事前準備	GB訓練	班集会でルートの説明、写真の訓練が出来る	ルートの設定確認、課題の設定とカメラの使い方学習	関連地図、過去のポイント写真、一眼レフ、コンデジ
	班会議	50 キロを歩く意味の共有と進歩の細目の徹底	50 キロのルートの確認、課題の確認、装備の確認	
	班集会	当日の準備	具体的なハイキングの注意事項の確認、写真撮影のポイントの確認、	関連地図、過去のポイント写真、一眼レフ、コンデジ
	初級スカウト	2級スカウト	1級スカウト	
進級課題	必修科目			
	ターゲットバッジ	C1 (ハイキング企画) 1, 2, 3, 4, 5, 6、C2 (読図) 1, 2, 5, 6、C4 (写真) 1, 2, 3, 5		

## 西宮時代に始めた全国での50キロハイク

まず、96団で実施している50キロハイクのプログラムの特徴について、その実施経過も含めて紹介する。

50キロハイクは、かつてシニア時代の富士章の細目にあった。私自身がスカウト時代には縁がなかったプログラムであるが、かつて所属していた芦屋1団から私が親の転勤で中3で横浜に転団した後、1年後輩が旧世代の富士章を取得しており、出身団でも実施していたと思われる。

1997年、自分の子どもたちの96団加入で、私もスカウト指導者の一端に加わった。その翌年、転勤で西宮市に住むことになり、子どもたちとともに西宮25団の活動に参加することになった。団の規模としては、96団と同程度の中規模団である。CS副長として1年活動した後、BS部門が弱かったため、2年目にBS研修所にも行ってBSの副長も兼務していた。なんとか2班体制を取っていたが、小規模団の西宮1団、26団とも合同活動を試行していた。そこで、25団からの提案で、50キロハイクを3団プログラムで実施をすることになり、私も含めた各団のBS指導者で知恵を絞ってプログラム内容を決めた。

西明石から西宮に向かって50キロを歩き、途中の10キロ、20キロ、25キロ、30キロ、35キロ、40キロ、45キロにポイントを設置。スカウト保護者が各ポイントを担当し、給水や食料供給、遅れたスカウトの同行などの支援を行った。計5班、25人のスカウトが参加し、3団の指導者・保護者を合わせると計50人での実施となった。完歩したスカウトには、ネーム入りのユニクロのフリース（自費）も作るなど、スカウトも達成感があり、保護者や指導者が一体となったプログラムが実施できた。

## 96団でも、一部カブ隊も参加して全国で実施

2002年春に96団に戻った後、50キロハイクを団会議で提案した。当初は、単に日本橋から旧東海道を通り、活動拠点までの50キロを伴走車を用意して歩くというプログラムを実施した。東海道の「やっこさん」をシンボルとする96団に相応しいコースだったが、当時は保護者参画の視点がなかった。

2008年秋からボーイ隊副長となり、ボーイ部門からの提案し、2011年1月に初めて保護者参画の企画で実施した。途中のポイントごとに保護者や団関係者の支援(図12)を受けただけでなく、CS隊も鶴見からの旧東海道の一部コースを歩く(図13)というプログラムとなり、スカウトらしいプログラムを保護者も含めた団全体で共有できた。

BS隊長2年目となる2014年度に、再び同様の50キロハイクのプログラムを実施したいと考え、GBたちと相談の上、年間プログラムに入れていた。そして、クリスマス会時の保護者会で、1月31日に実施する50キロハイクでのポイント支援を依頼。その後も、メールなどで保護者に依頼事項を整理し、3箇所のポイントでの軽食提供や温かい飲み物などの支援を実施してもらった。



2011年の50キロハイク (図12)



2011年はカブも部分参加(図13)

## 50キロハイクの保護者=「やり遂げた自信」「成長、楽しみ」

2015年1月31日に実施した50キロハイクは、班長、次長とも部活があったため途中合流となり、小学校5年生3人の初級スカウトだけで午前6時半に日本橋をスタートした。途中で、旧東海道を歩いている証拠を写真で記録するという課題に取り組みながら歩いた。

第5ポイントの35キロ地点（相鉄線天王町駅付近）から次長が、42キロ過ぎから班長も合流してゴールを目指した。途中保護者には、第5ポイント、第6ポイント（40キロ地点）、ゴール地点での温かい飲み物や食べ物を差し入れてもらうとともに(図14)、ポイント間をスカウトの後追いにも参加してもらった。

多くの保護者に支援をしていただいた結果、途中から班長が合流した後にスカウトたちのモチベーションが上がった場面や、班長が後ろ歩きしながら後輩たちを励ましているところ(図15)などによって、スカウトがみんなで苦しい状況を乗り切ったのを目の当たりにしてもらうことができ、ゴールの喜びも分かち合えた(図16)。



途中の差し入れ(図14)



班長の後ろ歩き(図15)

保護者からは、メールで次のような感想が寄せられた。

「ハイクの感想を聞いたところ、再来年ならまた歩けると言うてました」

「おかげさまで、ボーイ隊になってからは、身長が伸びただけでなく心身共に、  
すごく成長していると日々実感させられます」

「今回のハイクでは、やり遂げられたという強い自信を肌で感じさせられました。  
今後の更なる成長も楽しみです」

「下の子は、翌日も多少足は痛かったようですが、無事終えたことで、ほっとした様子でした。兄は、  
班長として少しは働くことができたようで、笑顔でした」

次期隊長とともに実施したプログラムで、これらの保護者からの言葉を引き出したことで、課題2で  
残された課題3の自己研修計画が実践できたと考える。



ゴールには団委員長も(図16)

## その後の引き継ぎプロセス

その後は、2月は首都圏のJRの電車区間を一筆書きで乗る「電車ハイク」、3月は団の春の村、4月  
はサイクリング、5月は栄区内の5団ラリー、6月はカヌー訓練、7月は訓練キャンプ、8月はボーイ  
隊の夏の村という活動を、GB→班集会→隊集会のプロセスを重ねながら、次期隊長への引き継ぎを  
意識して展開した。ただ、研修ニーズの(1)であげたような、リーダー会議とは別の継続協議の場は十  
分設けることは出来なかった。実際にプログラムを実施しながらOJTを意識した活動を紹介する。

### 春のキャンプ=Tスカウトのお別れ会

3月29日は、団行事の春の村として、合同バーベキューと夜のキャンドル  
ファイヤーが行われた。スタンツの課題として、事前のGB会議で、信仰  
奨励章の考查科目にもなっている「アンノンスカウト」の物語を元にし  
たスタンツを指導者から提案。自分たちでシナリオを作ってスタンツをや  
らせた。GBたちにとっては、積極的にやりたい内容ではなかったと思わ  
れるが、班員の進歩につながるというもって行き方をする事で、GB会  
議で決めさせた。「班員の進歩管理」は自分の役割であるという意識を、  
しっかり班長に持たせておくことで実施できたプログラムといえ、やり方  
次第であるということをおJT的に引き継いだつもりである。

また、ボーイだけだった28日は、3月末で退団となるTスカウトのお別れ会を  
行った。

このため、春キャンプの初日夜、部活が終わった夜に送別の食事会を実施。T  
スカウトには剣道の胴着などを持参させ、他のスカウトの前で見本演  
技を実施し、剣道での蹲踞を指導してもらった(図18)。

最後に、全員の前で退団のあいさつをさせ、私からは「ちかいを立  
てたのだから、活動はやめても一生スカウトとしてちかいとおきての  
実践を忘れないで欲しい」と言って送り出した。

今後も、ボーイ隊での途中退団があり得るが、本人のためにも、残  
されたスカウトのためにも、今後も仲間であられるようよい形で送り  
出すというやり方を引き継いで欲しいと願っている。

なお、後任隊長の時代になって、2016年の中学進学時に退団となったスカウトに対しては、また新  
たな工夫をしてくれている。小6から身長の高さを見込まれミニバスケットに参加し、中学進学後はバ  
スケットに専念することから退団を予定していた。ただ、中学の部活はゴールデンウィーク後に本格始動と  
なるため、春休みに1級キャンプを実施して団面接までこぎ着けて1級を取得。ゴールデンウィークに、  
「変わらず仲間である」ということを確認するような班キャンプを実施し、あえてお別れのセレモニー  
にはしなかった。



「霧のロンドン」96バージョン(図17)



追い出しの食事会と蹲踞(図18)

### 第三教程

これは、退団が終わりではないという私の願いを、後任隊長がさらに発展させた結果といえ、この自主研修のねらいだった次期隊長への引き継ぎが、うまく行ったことの証左だと考える。

#### 全スカウトから「寄せ書き」受け取り原隊卒業

7月31日から8月3日、山中野営場でボーイ隊の夏のキャンプを行った。スカウトたちの水プログラムというリクエストに応じて、山中湖でのカヌー訓練をメインにした。GBたちの部活や、班員のミニバス、タグラグビーなどの予定もあり、途中参加者も多かったが、6月からカヌー訓練を行ってきたこともあって、メインプログラムには全スカウトが参加した。

全員がそろった3泊目の夕食時には、スカウトや指導者らからの寄せ書きを渡された(図19)。その準備に全く気づいていなかったこともあって、今後、隊指導者としてスカウトと関われないことに改めて気づかされ、軽くショックだったが、スカウトが私のプロセスを後押ししてくれた。



寄せ書きを渡された後(図19)

#### 若手S副長との引き継ぎを計画

研修ニーズ(2)で、96団のスカウト上がりで26歳のS副長に、次期隊長を支えてもらいたいと考え、3人でのミーティングを実施し、意識合わせをしたいと考えていた。S副長は、中学時代に学校へ行けなくなって以来、いわゆる引きこもりのようになったスカウトだったが、私の息子の同級生だったこともあって、私がボーイ隊の指導者(副長)になった2008年度から、副長補としてデンコーチ担当をお願いしてきた。私が隊長になってからは、デンコーチ担当に加え、GB担当も委嘱していた。

地区行事などの公の場は、これまでは参加を嫌がっていたが、事前訓練を担当した2014年度の地区技能大会では、O副長からの「訓練をしたのだから、本番も応援しないと」という声に背中を押され、指導者になって初めて地区行事にも参加してくれた。

自団のRS、VSの集まりにも顔を出してくれるようになってきたため、2015年9月に行われることになっていたBS講習会に、RSたちと一緒に参加してくれるよう打診し、RSらの参加とりまとめも依頼した。結果的に、他のRSたちの日程が合わず、団委員1人とS副長の2人だけの参加だったが、さらに一步、活動に踏み込んでくれたとありがたかった。私からは、96団として、上進年度の切り替えで2016年度からスタートすることになる「月ノ輪」のリーダーに、委嘱したい方針であるとも話していた。

#### 新隊長の父親看取り後、3者会談実施

一方、隊長引き継ぎ直前の8月下旬、次期隊長が同居の父親の具合が急変し、在宅での看取りをされたこともあって、最後の引き継ぎや上進式後の新年度スタートがスムーズに出来なかった。GB担当だった若手のS副長がGBとの連絡役を果たし、副長陣らで隊長復帰までの1カ月半をつないだ。このため、新BS隊長とS副長との引き継ぎ意見交換の実施は、2015年の11月中旬に行った。

まず、新BS隊長が承知していない、S副長の現役スカウト時代から、96団ボーイ隊の指導方針の変遷について話を聞いた。S副長の現役時代は、団広場を使って、平均月1回、キャンプを実施するのが中心的活動だった。そこで、進歩はチェックされていたが、考査は隊長や副長が担当し、班制度を十分機能させなかったため、班長やGBが育っていなかったという実態を語ってくれた。そこからBS隊長が、私の前任と私と交代するなかで、GBや班長機能の強化などが図られてきた経緯を語ってくれた。

一方で、新BS隊長からは、保護者からCSデンリーダーになったばかりのカブキャンプで、カブ時代にやんちゃで手を焼いたスカウトがデンコーチで手伝いに来てくれた際、見違える働きをしており、ボーイ隊の指導力に驚いたという話をしてくれた。

これは、全く打ち合わせになかった話だったが、このカブキャンプでデンリーダーを指導したのが、S副長だった。当時、デンコーチ担当となったS副長と私とで、従前はやっていなかったデンコーチ会議や訓練、ワークシートなどを活用して準備してデンコーチを派遣。現場でもスカウトの判断や行動をじっくり後ろから見守るS副長のやり方が、デンコーチたちに落ち着きを与え、よい結果を出していた。対話の場を作ったことで、新BS隊長がS副長の手法を高く評価していたことが分かった。

### 第三教程

それによって、指導者側の「見守る力」の重要性について、新隊長とS副長が共通認識を持つことが出来たと言える。また、受験を前に、欠席がちな次長のフォローをどうするかということについても、有意義な意見交換が出来た。

#### 継続して新旧隊長として意見交換行おう

とはいえ、BSの新隊長との間で、十分丁寧な引き継ぎが出来たとは言えない。その後も折りを見て、団委員長と現隊長としてではなく、新旧のBS隊長としての意見交換を行っている。

なお、この引き継ぎ会議の翌日、96団ホワイトベアー班は地区技能大会で総合4連覇を果たした。ちなみに、2016年度に新地区となる4地区合同全体で実施した技能大会では、惜しくも総合2位だった。

スカウトたちの頑張りに、弥栄を贈る。



2015年度の地区技能大会  
総合4連覇の勇姿

## 課題 4

上記1、2の課題を行う過程において実施したプログラムについて、保護者や地域社会にアプローチした内容と結果を報告してください。

### 保護者へのアプローチと結果＝声聞く機会を活かす

これまで記してきた通り、実修所への研修ニーズが、次の隊長への引き継ぎにあった。その中で、保護者との協力関係の構築が非常に重要であるとの認識を引き継ぐことは大きなテーマであった。もともと保護者から指導者になっていただいた方故に、保護者との関係の重要性については、十分、理解があった方とは言え、実際のプログラムプロセスの中で、隊長としてどう保護者との協力関係を作るかは、OJTで伝えることが研修ニーズであった。

まず、2014年度のスタート直後の最初のキャンプ明けの午前、スカウトたちが基本訓練などを行っている時間に、保護者会を行った。ここでは、年間のプログラムについての説明や指導方針などについて説明をすると同時に、スカウトの部活や学校外活動、塾などの予定の聞き取りを行った。この時点で、中1スカウトが3人、小5の新入スカウトが3人で、兄弟がいるため、5家族のいずれも母親が参加された。うち、2人の父親がBVSとVSの隊指導者として活動をしている。

まず、互いに自己紹介をしていただき、それぞれどのような経緯で入団したのかなどを語ってもらった。また、中学生スカウトの保護者には、部活との両立について「部活があるので、あまり参加しないが、取りあえず頑張るみたい」、「剣道部に入って毎朝5時から部活、ほとんど活動に来られていないが、本人は辞める気はない」などと話して頂き、小学生の保護者に中学生スカウトの部活との両立の大変さについて理解してもらうことができた。新入スカウトの保護者からは「とてもボーイを楽しみにしているようだ」などと、期待の言葉をいただいた。部活の予定、塾や習い事の予定のほか、2つの小学校、3つの中学校の予定表などに基づいて、テスト時期や小学校の修学旅行の時期などを聞いた。スカウト活動と部活や勉強との両立について、ご家庭でも協力いただいていることが、新入隊員の保護者に理解していただける機会ともなった。

12月のクリスマス会の際の保護者会では、さらに部活との両立、特に部活の予定の把握について状況を聞いた。

「部活の予定は、月末にならないと分からないので、（家庭でも）予定が立てられない。保護者にアナウンスはない。試合についても、スケジュールが出たときに分かる」などといい、家庭でも苦労されていることが分かった。スカウト指導者から、部活の顧問にせめて試合日程だけでも予定を早く伝えてもらえるように手紙を送るなどの対応策について相談したところ、「他の部員も同じ状況なので、スカウトだけ特別だと本人が拒絶反応をすると思う」などとアドバイスをいただき、簡単に解決できないことを共有した。

さらに、50キロハイクについては、実施翌日の体調などの状況を問い合わせたメールに対して「リーダーの皆さんのおかげで、歩き通せたことは、だんだんわかってくるのではないか」、「リーダーさん方々には、事前準備から当日は早朝から深夜まで、あの寒さ中、子ども達に寄り添い、ずっとサポートしていただき、本当に感謝の気持ちで一杯です」などと連絡をいただいた。

これらのコメントは、保護者が活動に参画いただいていないと分からない内容で、引き継ぎプロセスの中で次期隊長とも共有できたのはよかったと考えている。

## 地域へのアプローチと結果＝地元の「燈明寺」で住職から法話

クリスマス会のプログラムプロセスの中で触れたが、12月14日の班集会の中で、例年、12月31日にオーバーナイトハイク（資料3-7）を実施した際に、泊めていただく地元の「燈明寺」を訪れている。

菩提寺にしている指導者がいることもあって、2005年12月からほぼ毎年、寺の敷地内の会館を無料で利用させていただいている。大晦日には、鎌倉周辺の夜間ハイクを行って深夜にお寺に到着。除夜の鐘をたたかせていただいた後(図21)、会館内で寝袋で就寝。早朝に起床して、すぐ近くで展望のある五霊神社で初詣をして、初日を見ている。歩くコースは変えているが、毎年の年越し集会のパターンとなっている。



燈明寺の除夜の鐘(2013年12月)(図21)

今回、信仰奨励章の考査科目8にある「自分の家の宗教（派）か、自分の興味を持った宗教（派）の教導職から信仰や宗教について話を聞く」に該当すると考え、大晦日にお世話になるご挨拶を兼ねて、除夜の鐘の意味などを聞かせていただくということで、班集会の午後に訪問を実施した。

事前に、指導者からご住職にお願いをして、時間を取っていただいていたが、残念ながら、参加は初級スカウト2人とどまった。

ご住職は、スカウトから午前中にクリスマス会や夜間ハイクの計画作りをしていたことを聞き、ハイキングでは「安心」をせずに常に「要心」をしておくこととか、そのために自分自身で自分にスイッチを入れてやること、計画は立てつつ臨機応変で対応できるような「動中の工夫」が大事であることなど、スカウトに問いかけながら、講話をいただいた。今後も継続して実施することで、信仰奨励章の取得につなげていきたいと考えている。

年越し夜間ハイクの隊集会自体は、課題2で取り組んだクリスマス会の後の実施だが、GB集会や班集会などは、クリスマス会の準備プロセスと並行で行っており、結果として同時に地域社会に対するアプローチを実施することができた。



2015年の五霊神社の初詣(図22)

なお、クリスマス会の会場で有償でお借りした「小雀みどり保育園」は、地域の共同保育所から認可保育所になった場所だ。班集会やグリーンバー会議では、「特別養護老人ホーム田谷の里」の会議室を無償で使わせていただいた。これらの地域施設を利用できるのは、96団のスカウト活動が地域に立脚しているからであり、これからも感謝して利用させていただきたい。

### 地域社会の一員をスカウトに意識させるために

年越しハイクで、12月31日に燈明寺の会館をお借りして宿泊し、百八つの除夜の鐘をたたかせていただいたこと、2015年1月1日に五霊神社で地域の方と一緒に初詣をしたことなど、いずれもスカウトが地域社会の一員であることを実感できるプログラムとなっている。



2014年9月の熊野神社お祭り(図23)

2015年度からは年越しプログラムでお世話になっている五霊神社の草刈り奉仕も継続して行っている。数年前に移転した現在の団倉庫がある町内会館が、五霊神社に設置されており、敷地の草刈り奉仕は、普段お世話になっている町内への奉仕という意味もある。

また、今回の課題1、2の時期とは違うものの、96団では以前から旧団広場のあった町内にある熊野神社で毎年9月に行われるお祭りへの奉仕で、ベビーカー預かりなどの役割を果たし続けている。

これらの地域との関わりをプログラムに入れることで、指導者も、スカウトも、共に地域に暮らしている意識を持つことにつながればと考えている。

五霊神社の草刈りは、団全体としての奉仕と位置づけており、継続して取り組んでいくことにしている。

# プログラム企画書

作成日：平成26年12月14日

テーマ	オーバーナイトハイク	目標	夜を安全に歩き、初日を見る	
隊集会	平成26年12月31日-1日	当番班	ホワイトベアー班	
班長会議	平成26年11月28日	GB訓練	平成26年11月28日	
	ニーズ	目的	ねらい	
ニーズの集約	指導者	見慣れた景色を夜間に歩かせ、大晦日と新年を、敬虔な気持ちで迎えさせたい	地図読みの技能向上、夜間ハイクの安全な実施	燈明寺の住職へのご挨拶で、信仰奨励章につなげる。
	GB	普段は出歩けない夜中に、町中を堂々と歩ける	夜間ハイクを歩き通す	
	スカウト	除夜の鐘をならしたり、初日の出をみてみたい		
	目的	目標	細部	
プログラム内容	隊	夜中に20キロ前後を歩く。信仰心の涵養	安全に歩き通す。除夜の鐘の意味を分かって突く	ルートにテーマ性を設ける。除夜の鐘の意味について、住職に事前に話を聞く
	班	夜中に20キロ前後を歩く。	与えられた課題で、ルートを間違わずに歩く	
	個人	夜中に20キロ前後を歩く。	個人での安全管理をしっかりして、ゴールする。	地図を読む力を持つ。除夜の鐘の意味を知る
	実施課目	実施内容	準備品	
事前準備	GB訓練	オーバーナイトハイクの意義の共有	歩くルートの大筋の確認 当日の流れの確認	
	班会議	オーバーナイトハイクの流れの共有	新入隊員への実施概要の説明	
	班集会	燈明寺へのご挨拶	当日の宿泊の依頼と、除夜の鐘の意義を聞く	
	初級スカウト	2級スカウト	1級スカウト	
進級課目	必修科目			
	ターゲットバッジ	C1 (ハイキング企画) 1, 2, 3, 4, 5, 6, C2 (読図) 1, 2, 5, 6 信仰奨励章 8		

## まとめ

### 団委員長として経験を活かす

今回の実修所第3教程では、企画した集会のプログラムプロセスの実践だけでなく、次期隊長への引き継ぎOJTということを課題にした。引き継ぎを含めたことによって、どこでこの報告書をまとめるかが難しくなり、結果として隊長終了後になって、最初の報告書をまとめることになった。いろいろなもくろみがあったため、プログラムのプロセスを分かりやすく記述するということが出来ておらず、最初の報告書から大幅な書き直しとなった。

しかし、団委員長になってから、改めてプログラムプロセスを深く考える機会を得たことによって、次のような成果を得ることができたことも報告しておく。

### BVS、CSにも月間プログラムの企画書を提供

まず、実修所で覚えて、BS隊の集会向けに作った集会の企画書のフォーマットを、さらに改良して団内で共有することにした。これは、BS隊長であったら発想しないことであつたし、15年9月の団研（静岡23期）の研修から考えたことでもある。第3教程で使ったBS企画書バージョンを改訂。BS部門だけでなく、CSとBVSについても、新たに作成を試みた（資料3-10～12）。

BS部門の改訂では、「ニーズの把握」の欄が「ニーズ」、「目的」、「ねらい」と書き分けることになっていたものを合体し、「ニーズと目的、したいこと・させたいこと」と書きやすくした。「プログラム内容」については、「目的・ねらい」、「具体的な達成目標」、「プログラムの細部と担当者」と書きやすい見出しとし、事前準備にも担当者を明記するようにした。

さらに、進歩だけでなく、スカウト教育の方法がどれだけ含まれているかを確認できるよう「ちかいとおきての実践」、「行くことによって学ぶ」、「チームシステム」、「自然での活動」、「象徴的枠組み」、「成人の支援」欄にチェックするようにした。

まだ、団内には提案段階に留まっているが、年間プログラムを作った段階で、隊長が月間プログラムの企画書を作っておくことで、隊の指導者が共通のねらいを持ってプログラムの準備ができる。カブ隊のデンリーダーや、ビーバー隊の補助者にも、集会の意図が伝わるし、隊長が急ぎよ、参加できない場合でも、ぶれないでスカウトの指導が可能になる。事前の段階で、副長に特定の部分を割り振って実施してもらうこともでき、指導者の養成にもつながると考えている。

### 部門合同のプログラムのプロセスを団会議で早期に共有

各部門のプログラムには、月の輪集会やデンコーチの派遣、VSのBS支援、BVSとCSの合同プログラムなど、部門を超えるプログラムがあるが、これまで、どうしても調整が遅れがちだった。従来、団会議では、各部門の来月の実施プログラムの計画を承認してきた。それを、複数の部門が関わるプログラムについては、少なくとも2カ月前から他部門へのニーズなどの調整状況を確認することにした。

時間的な余裕が出たことで、これまでは文句の言い合いになってしまいがちだった場面が、双方から問題解決策を考える場面になり、全部門のプログラムプロセスが共有化され、集会実施時の指導者不足なども、早期に手を打つことができるようになった。これも、実修所の学びで、プログラムプロセスを深く考えた結果だ。

### 団の視点だからこそそのプログラムプロセス-やっこさんニュースも創刊

実際に、CS隊長、BS隊長を経験し、地区でCS部門のコミッショナーやBSの班長訓練会の主任講師役を務め、他団の指導者とも悩みを共有する中で、団だからこそ原隊のプログラムプロセスをスムーズに進められる機会を提供できると考えている。それによって、団全体のプログラム水準が向上し、ひいてはスカウトの増加にも必ずつながると考えている。

団として出来ることとして、保護者に活動状況を伝える「やっこさんニュース」（資料3-13）を創刊したことも最後に報告しておく。引き続き、各部門が充実した活動が出来る団運営を心がけたい。

資料3-10 (BS月間プログラム企画書)

BS 月間プログラム企画書 作成日：平成 年 月 日 / 作成者：

テーマ				目 標				
隊集会		平成 年 月 日		班長会議		平成 年 月 日		
GB 訓練		平成 年 月 日		必要予算				
ニーズと目的、したいこと・させたいこと								
ニーズの集約	指導者							
	GB							
	スカウト							
	保護者							
		目的・ねらい		具体的な達成目標		プログラムの細部と担当者		
プログラム内容	隊集会							
	班集会 1							
	班集会 2							
		実施課目		実施内容と担当者		準備品と担当者		
事前準備	GB 訓練							
	班会議							
	班集会							
	スカウト							
		初級スカウト		2級スカウト		1級スカウト		
進歩課目	ターゲット・ 信仰奨励章							
○教育法	ちかいとおき での実践		行うことによ って学ぶ		チームシステ ム		自然での活動 象徴的枠組み 成人の支援	

資料3-11 (CS月間プログラム企画書)

CS 月間プログラム企画書 作成日：平成 年 月 日 / 作成者：

テーマ				目 標		
隊集会		平成 年 月 日	組集会 1		平成 年 月 日	
組集会 2		平成 年 月 日	必要予算			
ニーズと目的、したいこと・させたいこと						
この集会へのニーズ	指導者から					
	保護者から					
	スカウトから					
		目的・ねらい	具体的な目標・課題	プログラムの細部		
プログラム内容	隊集会					
	組集会 1					
	組集会 2					
誰が担当して、いつまでに、何を、何のために、どのようにして						
事前準備	団内調整					
	リーダーの調整					
	保護者との調整					
	資機材の準備					
		うさぎ	しか	くま		
進級課題	ステップ章					
	チャレンジ章					
○教育法	ちかいとおきての実践	行うことによって学ぶ	チームシステム	自然での活動	象徴的枠組み	成人の支援

資料3-12 (BVS月間プログラム企画書)

BVS プログラム企画書 作成日：平成 年 月 日 / 作成者：

テーマ				目 標		
集会日	平成 年 月 日			必要予算	平成 年 月 日	
この集会へのニーズ	ニーズと目的、したいこと・させたいこと					
	指導者から					
	保護者から					
	スカウトから					
プログラム内容		目的・ねらい	具体的な目標・課題	プログラムの細部と担当者		
	メインプログラム					
	ゲームやクラフト					
	ゲームやクラフト					
事前準備	誰が担当して、いつまでに、何を、何のために、どのようにして					
		メインプログラム		ゲーム・クラフト1	ゲーム・クラフト2	
	リーダーの調整					
	活動場所の確保					
	保護者との調整					
	資機材の準備					
	団内の調整					
木の葉章	生活		健康	自然	社会	表現
○教育法	ちかいとおきての実践	行うことによって学ぶ	チームシステム	自然での活動	象徴的枠組み	成人の支援

# やっこさんニュース



ボーイスカウト横浜96団 団だより 5号



## カブの秋キャンプ

【CS】10月1、2日、カブ隊は千

秀センターで秋のカブキャンプを行いました。

この日は午後4時からの設営開始という悪条件の中、ボーイ隊からの2人の伝コーチがスカウトたちに、てきぱき指導を行い、両組ともに家型テントを無事立てることができ、調理や火興しにも手分けして取り組むことが出来ました。



夜のお楽しみプログラムの後、デンコーチも参加した組長会議で、初日にできなかったことをしっかり反省し、2日目の

徹営は、みんなで助け合って素早く行うことができ、終わりのセレモニーで、頑張りを褒めてもらっていました。



## 5連覇ならず=4地区で堂々2位

【BS】今年のボーイ部門の地区班制高揚技能大会は、来年4月から新地区になる「横浜みなと」「横浜中央」「横須賀」の各団と4地区合同で、港南区の久良木公園で開催され、96団ボーイ隊のホワイトベアー班は、堂々、総合2位という結果になりました。

は、4連覇を続けてきたホワイトベアー班ですが、参加25班の中で、結索の部(下欄)が1位、計測の部で3位、救急の部と読図の部が4位、通信の部(手旗)が10位で、トップには及びませんでした。

総合1位は、部門別で1位が2つ、2位が1つ、5位が1つ、7位が1つだった中央地区の30団コブラ班。96団の倉庫にあったトロフィーは30団に。



南央地区単独で



## 新地区投票1位

## 「みなと」地区

【地区】96団夏の村でも投票が行われた2017年4月から合併する「横浜南央」「横浜みなと」「横浜中央」「横須賀」の新地区名の募集結果が発表され、270票のうち、「みなと」地区が94票で最も多く、次が「横浜横須賀」地区73票、「ベイサイド」地区47票などとなりました。近く正式決定される見込みです。



### 【BVS】カブキャンプ訪問

10月1日の夜、千秀センターで行われているカブキャンプを見学を訪れ、カブ隊が作ったカレーをごちそうになりました。



### 【BS】すくっと高々、

ホワイトベアー班旗 技能大会のメインイベントとなった結索部門の班旗立て。4人で取り組んだホワイトベアー班は、25本の班旗のなかで、最も早く真直ぐ立ち、技能の高さを示すことが出来ました。



戸塚区、栄区にまたがるエリアでボーイスカウト活動しています。いつでも見学を歓迎します。

連絡先 96団団委員長 中川まで 090-8649-3180